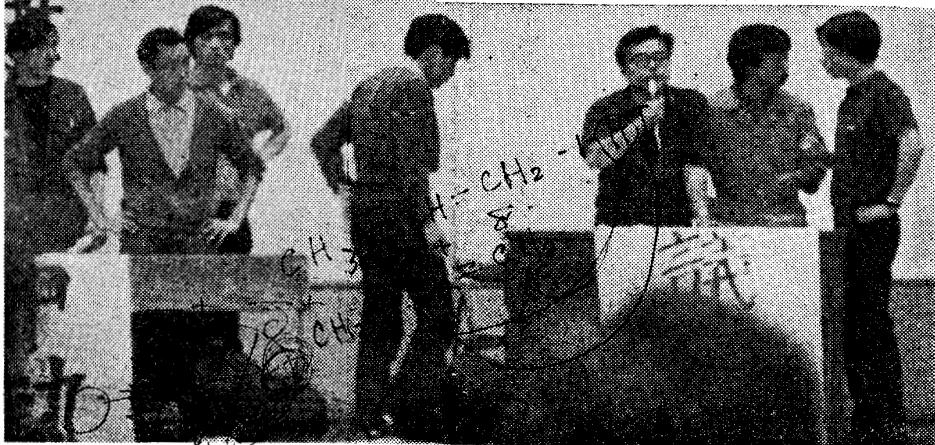


# MLと反帝が対立 学苑会



#### 対案の議案書をめぐり紛糾の学苑会本音

十一日に開かれた全学年会（東京文理大委員會）の宗例学生大會の「議案書」に対する抗議（立候補制による議長に橋田君、副議長に桜田君（文一）と、副議長に桜田君（文四）を選出した後、議場入り）、反説等詳しが、対案議案書を提出。

11日 学苑会大会收拾つかず

# 「対案議案書」をめぐり

議案書とは別の大手が大会島根勝者(西二)から対案に開く  
開始前に提出されており、それを経過報告がなされ、「資格審査  
先に審議すべきである」と主張し、会じては、人事案が出ていない  
た。この委員による、増加のものので、受理しないことを決定し、  
代議院席は駄馬となり、議事は一旦中止となつた。  
そのあと、  
この「討伐案」を提出したのが、大手半ばに提出  
した。しかゞ一定時間オーバーのため翌日の議論へと持ち越された。  
案書」をめぐり、両派抗争を重ねたが、揉みの結果、取り上げることに決定し  
た。しかし定時時間オーバーのため翌日の議論へと持ち越された。  
島根勝者(西二)から対案に開く  
経過報告がなされ、「資格審査  
その最も、一賛賛から十五分  
間の休憩をとる緊急動議がなされ  
これで可決した。  
休憩時間中、会場内外では、学  
生解放運動の中執委員と反帝學評連  
合の活動が活発化した。

W. H. DAVIS

指摘圖2としていた  
八時五分に再会になり、桜田君が「対案を現在の学苑会申説が實際的に取上げないので、議長を降りる」として、降臨。  
次に、本間繁榮学苑会副委員長が「人事案の欠けている議案書は、対案として認められないが、学生の意見を受け入れることは変わらない」と説明。これに対し、反帝學評の荻野君が「民青に活動を許す現在の学苑会を開く学苑会へと導びきた。現在の二部共闘は、反民青統一戦線でしかなく、スケジュールの確認の場でしかない」と批判した。

一時間にわたりて、会議から離脱したがなれば、「ボク」自身を自命して、揚げて全般運動へ参戻してきただが、さうなる事態のうちに、六月安政決戦があると位置づけた。このあと、代議士の平田君（文芸二）が、「學問本筋が高慢的と押しつぶした」（案書を聞いて、どのような判断をしたのか）といふ質問が再び審査委員会に出された。中島資格審査委員長が経過を報告。「さあほどの十五分休憩したので、委員會で再度協議したが、必要

るも、六名のうち審査官でなくては、何をも思ふ。理屈などは考へないは、委員会を判決をきり、議長に任ぜた」と説弁した。

また、本問審が一学年次の運動部を二年間わざわざな鑑賞を得てきのうかと反対審評を意識した表現したぬ。ヤシが飛びかに緊張感が充満して漂つた。

これに対し、反対審評は学生から「現在の学苑会、一部共闘が必要もしも大衆的でない。クラブやサークル設立まで活動をやっているし、今の学苑会・全英聯の限界を乗り越えてゆかなければならぬ」こと述べた。

九時三十分、議長が議運監督委員会から出された十分間の休憩に伴い、「クラスの意見を入れてゆく」は当然であり、全金闘運動につじは全面的にバックアップしていく」と語った。

が五号館地下一階で衝突し、反解放線系学生と反帝学評系学生の十数人が重軽傷を負った。(詳細は次号に)